

## 第2学年 学級活動（2）指導案

日 時 : 平成26年10月10日(金) 6校時  
 児 童 : 2年2組 男10名 女8名 計18名  
 指導者 : 小原 恵  
 (養護教諭 南館 史子)

**【研究主題】** ふるさとの復興を担う「人づくり」の展開 ～「自分から」かわり、学びを深める児童の育成～

震災当時、私は市内でも被害の大きかった地域の小学校に勤務していた。川を上がってきた水は校庭まで浸水し、家屋は津波の威力で壊された。自動車は津波の襲撃で脱線、線路は上下に波打っていた。螺旋上に曲がり停車していた自動車は、津波の恐ろしさを物語っていた。一瞬にして変わり果てた姿を目の当たりにし愕然とした。そのような状況の中で、ライフラインが途絶えてしまったことは、我々から情報を得るといふことさえも奪ってしまったのである。電気、水道、ガス、電話、道路が使えないということがこんなにも困るといふことを改めて思い知らされた。そして、日ごろから防災に対して、無関心で備えをしていなかった自分に後悔した。

現学級の子どもたちは、震災当時幼稚園・保育園のころである。津波に関して幼かった故にあまり記憶にないという子も多い。しかしその反面、あの光景を鮮明に覚えている子もいた。一人ひとりの体験値が異なるので、心のサポート面からもリラックスさせた中で学習に取り組ませたいと考える。

本題材、『「ひなんリュック」のなかみはなかに』では、非常時にライフラインが止まる可能性があることから、そのために非常持ち出し品が必要であることに気付かせたい。そして、ひなんリュックの中身がなぜ必要なのか理由を考える活動を通し、災害に備えようとする態度を育てたい。また、入っていたら役に立つものを紹介し、その使い方を考えさせることで防災意識を高めさせたいと考える。命を守るために必要な物を知り、家族で非常時の備えについて話し合うこと、そして、非常時のために日ごろから家庭に備えておく品物の点検についても再度確認させたい。

### 1 題材名 「ひなんリュック」のなかみは なかに

### 2 題材の構想

#### (1) 学習指導要領に示されている指導目標及び内容との関連

##### ○目 標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

##### ○内 容

[第1学年及び第2学年] [共通事項]の中での位置付け

学級を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常生活や学習に進んで取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。

##### [共通事項]

- (1) 学級や学校の生活づくり
  - (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全
- カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成**

#### ○学習の系統（本校の防災教育の学年別目標から：観点は「生きる力」を育む防災教育の展開 文部科学省より）

	ア 知識、思考・判断	イ 危険予測・主体的な行動	ウ 社会貢献・支援者の基盤
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆教師や放送の話や指示を注意して聞き、理解できる。</li> <li>☆日常生活や災害発生時の安全な行動の仕方が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆安全・危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動できる。</li> <li>☆危険な状況を見付けた時、身近な大人にすぐに知らせることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆高齢者や地域の人と関わったり、友達と協力して活動に取り組んだりすることができる。</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆地域で起こりやすい災害や地域で過去に起こった災害について知り、安全に行動をするための判断に生かすことができる。</li> <li>☆被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆災害時における危険を認識し、日常的な避難訓練等を生かして安全を確保する行動ができる。</li> <li>☆危険な状況を予測し、日常からの環境整備に気をつけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆自分たちの生活を支える人々に感謝する気持ちを持ち、周りの人々と協力して人の役に立つ行動をすることができる。</li> </ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆災害発生のメカニズムの基礎や過去の災害例から危険を理解することができる。</li> <li>☆備えの必要性や情報の活用について考え、安全な行動をとるための判断ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆日常生活において、災害についての知識を基に、正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができる。</li> <li>☆被災の軽減、災害後の生活を考え、備えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆地域の防災や被災時の助け合いの重要性を理解し、自分から進んでボランティア活動に参加することができる。</li> </ul>

(2) 題材構想図

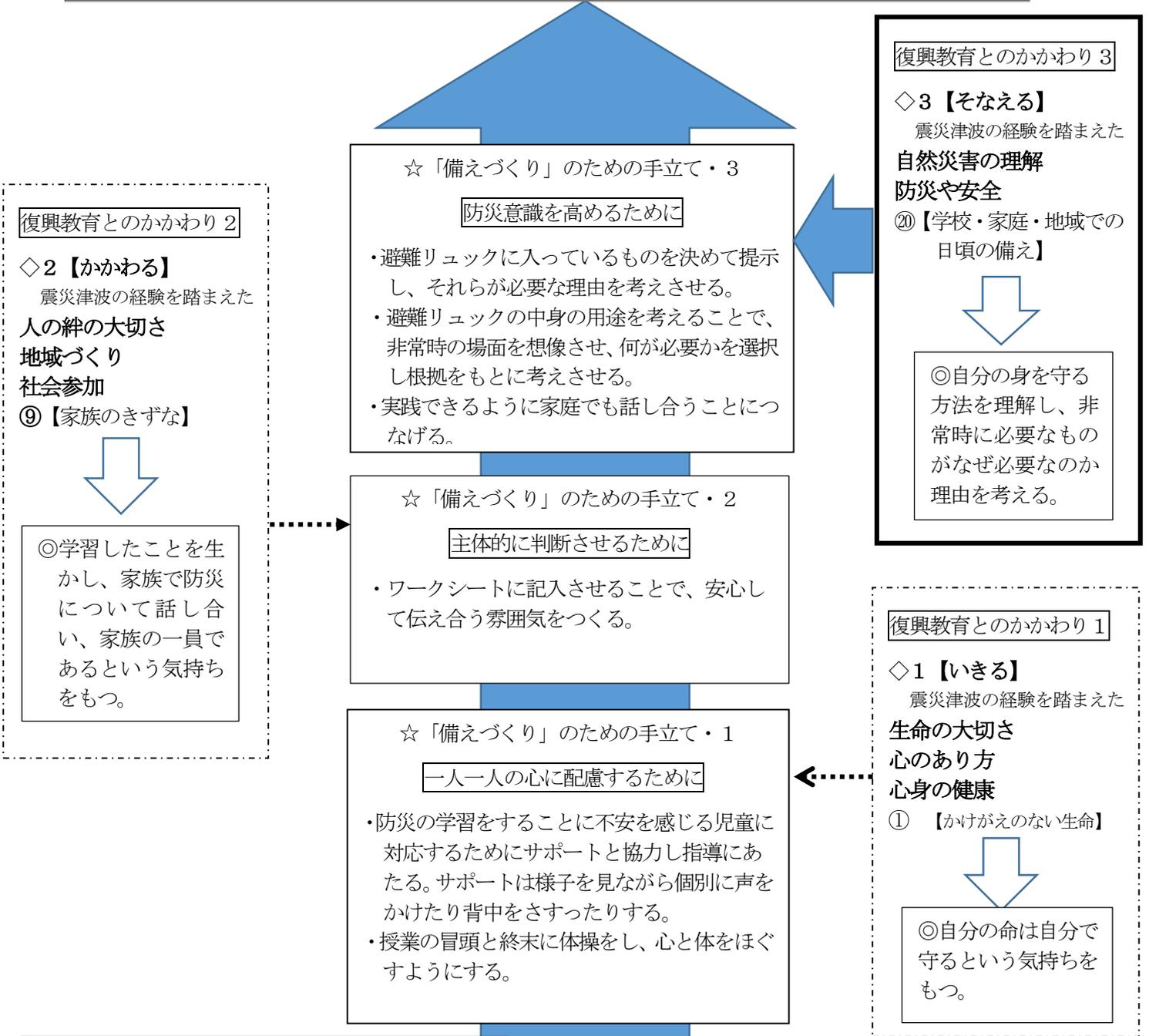
◎本校の復興に向かう合言葉 = 「自分から」

防災教育=復興教育の基礎学習

《本題材で目指す子どもの姿》

【つなぎ合う～備えづくり～】

非常時にどのように行動するかを主体的に考え、自分の身を自分で守ろうとする子



復興教育とのかかわり 2

◇2 【かかわる】

震災津波の経験を踏まえた  
人の絆の大切さ  
地域づくり  
社会参加

⑨ 【家族のきずな】

◎学習したことを生  
かし、家族で防災  
について話し合  
い、家族の一員で  
あるという気持ち  
をもつ。

☆「備えづくり」のための手立て・3

防災意識を高めるために

- ・避難リュックに入っているものを決めて提示し、それらが必要な理由を考えさせる。
- ・避難リュックの中身の用途を考えることで、非常時の場面を想像させ、何が必要かを選択し根拠をもとに考えさせる。
- ・実践できるように家庭でも話し合うことにつなげる。

☆「備えづくり」のための手立て・2

主体的に判断させるために

- ・ワークシートに記入させることで、安心して伝え合う雰囲気をつくる。

☆「備えづくり」のための手立て・1

一人一人の心に配慮するために

- ・防災の学習をすることに不安を感じる児童に対応するためにサポートと協力し指導にあたる。サポートは様子を見ながら個別に声をかけたり背中をさすったりする。
- ・授業の冒頭と終末に体操をし、心と体をほぐすようにする。

復興教育とのかかわり 3

◇3 【そなえる】

震災津波の経験を踏まえた  
自然災害の理解  
防災や安全

⑩ 【学校・家庭・地域での日頃の備え】

◎自分の身を守る方法を理解し、非常時に必要なものがなぜ必要なのか理由を考える。

復興教育とのかかわり 1

◇1 【いきる】

震災津波の経験を踏まえた  
生命の大切さ  
心のあり方  
心身の健康

⑪ 【かけがえない生命】

◎自分の命は自分で守るという気持ちをもつ。

【児童の実態】

- 校舎内で地震が起こったときの自分の身の守り方を理解している。
- 津波の特徴について学習している。
- 保育所から避難した経験をもつ児童もいれば、家庭において、被災した児童もいる。
- サイレンの音に敏感な児童、地震の揺れに敏感な児童がいる。

【題材について】

これまでの学習から、津波に対して「高いところへ逃げる」「すぐ逃げる」「戻らない」ということは理解している。しかし、日常生活を考えた時に、防災意識として非常時の備えは充分かという家庭において様々であると思われる。生き抜くためには、必要な物を備えておくことが大切である。非常時に必要な物に気付き、防災意識を高めることができる題材である。

(3) 題材の目標

集団生活や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
仲間と協力して、進んで話し合い活動に取り組むことができる。	避難リュックの中身がなぜ必要なのか理由を考えることができる。	避難リュックの中身について正しい知識をもつことができる。
<b>【防災教育との関連】ア 知識、思考・判断</b> ☆教師や放送の話や指示を注意して聞き、理解できる。 ☆日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方が分かる。		

3 指導計画

	活動内容	いつ	指導上の留意点・資料	評価規準 (評価方法)
本 時	○避難リュックの中身がなぜ必要なのか理由を考える。	学級活動	日ごろからの備えが大切であることに気付かせる。 (本時の展開を参照)	<b>【思考・判断・実践】</b> 知識や体験を生かしながら、中身の必要性を考えている。 (発言・ワークシート)
事 後	○家族で避難リュックや日ごろからの備えについて話し合う。	課外 (家庭)	災害が起きた時のために、日ごろからどのような備えをすればいいのか、授業で学習したことを生かし、家庭でも実践できるようにする。	<b>【思考・判断・実践】</b> 家族で話し合い、災害に対する備えをしている。 (実践カード)

4 本時の学習について

(1) 目標

- 避難リュックの中身の必要性を考えることができる。

(2) 評価規準

思考・判断 ・実践	知識や体験を生かしながら、中身の必要性を考えている。 (発言・ワークシート)
--------------	---

<努力を要する児童への支援>  
用途を示したヒントカードを提示しながら、中身の必要性を考えさせる。

(3) 「備えづくり」のための手立て

ア <u>防災意識を高めるために</u> ・避難リュックに入っているものの数を決めて提示し、それらが必要な理由を考えさせる。 ・実践できるように家庭でも話し合うことにつなげる。 イ <u>主体的に判断させるために</u> ・自分の考えを持たせてから話し合わせることで、どの子も自分の思いをもち、安心して伝え合う雰囲気をつくる。 ウ <u>一人一人の心に配慮するために</u> ・防災の学習をすることに不安を感じる児童をあらかじめ把握し、個別に声をかけたり背中をさすったりする。 ・授業の冒頭と終末に体操をし、心と体をほぐすようにする。
--

(4) 展開

段階	学習活動 (○主発問☆補助発問) ・期待する児童の反応	○教師の支援	◎評価 ◇目指す児童の姿
つかむ 5分	1 リラクゼーション  2 避難リュックについて知る。  3 本時の学習課題を確認する。	○ 気持ちを落ち着かせ、安心して学習に取り組めるよう配慮する。児童の様子を見て、必要と思われる時にリラクゼーションをする。(復興教育副読本高学年P18参照) ○ 養護教諭は、必要に応じて、不安を感じている児童や体調のすぐれない児童に寄り添い、不安をやわらげる。	◎評価 ◇目指す児童の姿  ◇備えについての興味関心をもっている。 (観察)
<b>ひなんリュックのなかみはなかに。</b>			
ふかめる 35分	4 避難リュックの中身を確認する。 ○ 中にはどんなものが入っているかな。 5 ひなんリュックに入れる物がどうして必要なか理由を考えて発表する。 【つなぎ合う】 ○ ○○は、どんないいことがあるかな。  ・水道が止まって水が必要。 ・電気が止まって真っ暗だよ。 ・お腹がすくから食べ物が必要 6 非常時の際の、物の用途を考える。 7 話し合ったことを交流する。 【つなぎ合う】 ○ これはどんな使い方があるかな。  8 体験する。 ・下に敷くとあたたかいな。 ・上からもかけられる。 ・ひっぱることもできそうだな。 ・結びつけると、ふくがかけられるね。 ・何かを押えられる。 9 学習のまとめ	○ 実物を見せながら紹介する。  ○ 入っている物の数を3つと限定して提示することで、話し合いを深めさせる。  ○ まずは一人で考える時間をとる。次に全体で交流させる。 ○ その物の良さを考えさせ、なりきりの吹き出しにする。困難な児童には、2つまでを選んで書かせる。 ○ 非常時の状況を考えさせる。  ○ 状況から必要な物の理由と関連させて考えさせる。 ○ 自分の意見を話すだけでなく、友だちの意見を聞き、思ったことも話すように促す。 ○ レジャーシートとロープで考えさせる。 ○ 結論は出さず、その物が○○だから必要という程度押える。 ○ 体験して実感させる。  ○ 学習をふり返り、課題について全体でまとめさせる。	◎避難リュックに入れるものがどうして必要なか理由を考えている。 (観察・発言)  ◇ワークシートに自分の考えを書こうとしている。 (観察)  ◇グループで使い方について話し合おうとしている。 (発言) ◇友達の見解の良いところに気づき、自分の考えに取り入れようとしている。 (発言)  ◇いざという時、生活で役立つものを準備することが安心につながることをおさえている。 (発言)

ひろげる5分	10 ふりかえり ○今日の学習の感想を書きましょう。 11 リラクゼーション	○今日の学習をふりかえらせ、大切だと思ったことや感じたことを書かせる。	◎知識や体験を生かしながら、中身の必要性を考えている。 (発言・ワークシート)
--------	--	-------------------------------------	--

(5) 板書計画

てい電になる



ひなんリュックのなかみはなあに

水が出ない



たべるものがない



レジャーシート

- 下にしくとあたたかい。
- ふとんがわり

ロープ

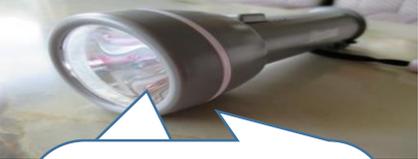
- ひっぱる
- むすぶ
- おさえる

じゅんびしていれば あんしん



だいじょうぶ

(6) ワークシート



わたしは、「かい中電とう」

いいことがあるよ。



わたしは、「水」

いいことがある



ぼくは、「かんぱん」

いいことがあるよ。

二年二組 名前